

幼児期から地域文化を醸成する ～今、なぜ文化を継承していくのか？～

久保木 亮 子

Developing a Local Culture from Infancy
～ Why We Need to Pass On Our Culture ～

Ryoko KUBOKI

はじめに

私は平成27年3月に高砂市役所を定年退職し、同4月より神戸親和女子大学、発達教育学部福祉臨床学科教員として、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を目指す学生の養成を行っています。

今、保育・教育の現場や地域で未来を育む子ども達や子育て中の保護者に、様々な支援が必要となっています。子ども達の健やかな成長を保障するために何を大切に伝えていくのか。今まで保育現場で実践してきた活動を通して学生達に伝えていきたいと考えています。

『生活の中で地域文化に触れる』取り組み

高砂市では、平成23年に第4次高砂市総合計画が策定され、『健康』『環境』『文化』を中心に、『郷土に学び 未来を拓く 生活文化都市 高砂』が掲げられました。

『健康』…少子高齢社会に対応する福祉・保健・医療の充実

『環境』…自然と共生した住みたい町づくり

『文化』…歴史文化を再認識して保存・継承・発展させ、新たな文化を創造し、ふるさと意識あふれる町づくり

保育園では、特に『文化』に着目し、乳幼児期から自分たちの生まれた町の歴史を知り、町を愛し、人々に愛され高砂市に生まれたことに誇りを持って成長してほしいと願っています。地域に伝わる民話の掘り起こしを様々な人々と関わりながら行い、それを保育の中心に据え実践しています。

<地域の名所・史跡を巡る>

地域の歴史（村や町の起こり）を知るために地域に出かけ高齢者の方々にお話を伺ったり、高齢者大学の歴史クラブの方から昔の生活や暮らしぶりを伺ったりするなど、史跡・名所巡りを通して自分達の住んでいる町を知る機会を設けています。

そこで知り得た情報や歩いた道のりをマップにまとめ、市の全体像を子ども達にも理解できるように具体化しています。

<民話を知り、民話に触れる>

民話の掘り起こしをしながら地域毎に伝わる話を絵本や人形劇、ペープサート、劇遊び、運動遊びにな

どにまとめ、さまざまな行事（運動会、作品展、音楽会、発表会）や催事（自治会や地域の集まりで民話を披露）などで広く人々に発表しています。

<民話発表の成果と反響>

昔から住んでいる高齢者の方々でも「この村が、こんな風にできたなんて知らなかったわ」「よー、調べてくれたなあ」など保育の取り組みに興味関心を寄せていただいています。又、「わし、〇〇なことやったら知ってるで」「〇〇地区にいつてみ。珍しいものがあるで」などと情報が寄せられるようになってきました。

そして、子どもから高齢者（祖父母）に、高齢者（祖父母）から孫に、子どもから保護者にと共通の話題で3世代が繋がるようになって来ました。

現代の保護者からみれば昔の話、地域の文化という難しいこと、面倒なことといった印象を持っていたが、子ども達が生き生きと話す様子や表現活動を身近に見て「面白いやん」「まあ、見てみようか」というように意識の変化が見られてきました。

<就学前保育の重要性を地域に発信>

市では、平成23年度から公立と民間保育所共催による保育フェアを開催し、保育所保育を広く市民に伝え、就学前保育の重要性を地域に発信している。次に保育フェアの内容を紹介します。

『遊びのコーナー』

廃材を使って親子でおもちゃ作りを楽しみ一緒に遊ぶ（エコ学習）

縁日ごっこを楽しむ（手作りの魚釣り、ボーリング、もぐらたたき、的当てコーナー等）

『食育のコーナー』

天然の素材を使って自然のだしの取り方の実演と給食、おやつを試食を行う

給食室内の映像公開（全園）（食材の搬入チェック、給食の調理（離乳食、アレルギー除去食等）・おやつ・配膳の流れ等）

『保育活動・子育て支援事業の紹介』

子育て支援センター、発達障がい児通所施設、保育園の様々な体験活動を掲示し説明する（地域交流、社会見学、エコ学習、伝承遊び、食育活動等）

『わらべ歌のコーナー』

保育士の指導の元、わらべ歌を通して、母語の大切さ、親子の触れ合いの大切さを伝える（乳児編、幼児編のわらべ歌、手作りレシピを配布）

以上、これらの試みは、公立・民間の保育士が自分達の社会における役割の重要性を認識する良い機会となっています。又、若い保育士へ保育文化の継承を行う意味もあり、子ども達と保育園での生活や遊びを通して、豊かでやわらかい感性を存分に発揮し、生きる力を乳幼児期から培っていることを保護者や市民に伝える役割を果たしています。

そして、保育園保育の中に養護と教育が一体となって展開されていることの意味づけと理論付けをしています。

<平成24年度の取り組み>

保育フェアとして大々的には開催せず、各保育園単位で地域に発信しました。曾根保育園では、曾根天満宮の宮司さんに神社の由来や祭りの話を伺い、曾根の民話を劇遊びや運動あそび、絵画造形活動等に展開しました。

<平成25年度の取り組み>

兵庫県の公立保育所各支部の代表園長による視察を受け入れ、その様子は公益社団法人兵庫県保育協会『よい子ネット』を通じて兵庫県全域に配信されました。そして、この活動の名称も『保育園フェア改め、子育て応援フェア』となりました。

<平成26年度の取り組み>

市制60周年事業「子育て応援フェア」を開催する60周年にちなみ、6歳～60歳代の人々がこれからもずっと元気に過ごせるようにと願って3世代の運動遊び交流を図りました。1,200名を超える参加者がパラバルーンを使って遊んだり、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じたりすることができました。

又、保育園児と保育士が高砂の町を愛する思いを言葉に綴り『わがまち 高砂』の歌を作り、子育て応援フェアで発表しました。この歌を大切に歌い継ぎながら現代の子ども文化を発信していきたいと考えています。

<ふるさとづくりは就学前保育・教育の役割>

就学前保育（教育）を木に例えると根っこの部分を育てています。根っこが栄養をとらなければ、木は大きく育ちません。保育者は、この目に見えない部分を大切に育て、その重要性を言葉や理論で伝えていく義務があると思います。

平成23年度の保育フェアの開催から、保育園保育の取り組みを地域に広く発信するようになり、保護者や地域の人びとの保育に対する評価が大きく変わり、支持されるようになりました。地域の人々との交流を通して、自分たちの町の文化・歴史を知り、町が大好きになり愛着と誇りを持って成長し、子ども達一人ひとりのふるさとづくりをしていくことだと考えます。

就学前保育・教育に関わる者が、協働して地域に向かって発信していき、未来を担う子ども達の保護者が、子育てが楽しく掛け替えのないものと思えるように支援していきたいと思います。子どもたちの笑顔は地域の宝物です。

次に平成23年度からの取り組みを写真やコメント、アンケート結果を紹介し、そこから見られる今後の課題や方向性を考えます。

遊びコーナー



廃材を利用して



親子
おもちゃ作り



写真：筆者撮影

食育



給食室内調理風景

自然の旨味だし
汁の実演と試飲



給食、手作りおやつの試食



保育活動展示



地域との交流

- ・自然、社会体験
- ・幼、小、中、高、支援学校
- ・子育て支援センター

写真：筆者撮影

24年度は、園単位で地域に発信



宮司さんより、神社の由来を聞く。



お祭りごっこ
播州の秋祭り
竹割神事

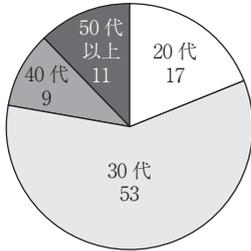
屋台の練り合わせ



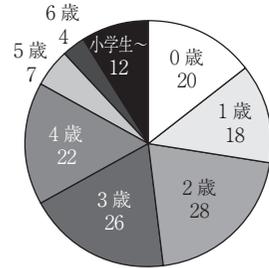
<平成25年度>

高砂市子育て応援フェア アンケート集計結果

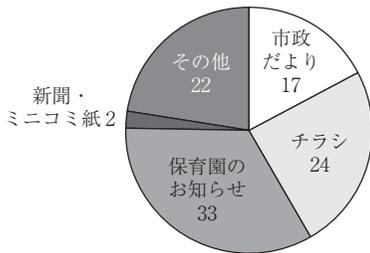
①あなた自身にお尋ねします。あなたの年齢は？



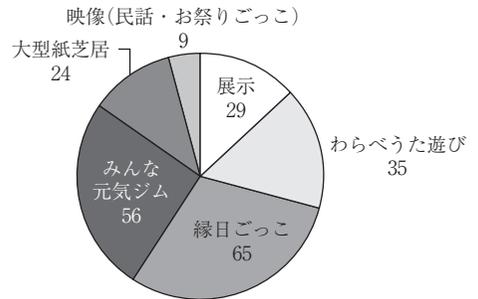
②あなたの子どもさんの年齢を教えてください。(今日現在で)



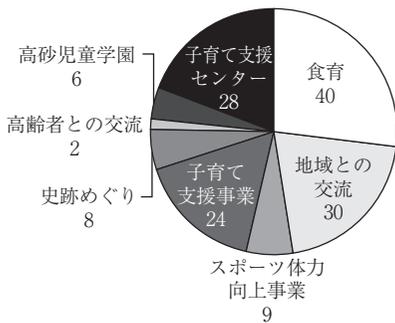
③何で、この子育て応援フェアを知りましたか？



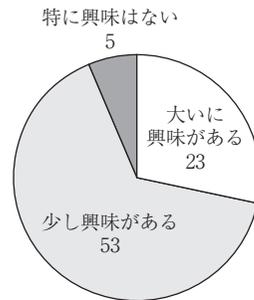
④どのコーナーが良かったですか？(複数回答可)



⑤展示コーナーの保育園等の活動で、印象に残ったものは何ですか？(複数回答可)



⑥地域に伝わる民話に興味がありますか？



⑨今後、参加してみたいと思う内容等をお聞かせください。

※親子遊び

- ・子どもと一緒に楽しめるコーナー
- ・わらべうた
- ・歌あそび
- ・運動会

※ワークショップ

- ・リトミック
- ・英語を使った遊び
- ・体操
- ・狂言
- ・制作（おもちゃ作り）

※講演会

- ・父親講座
- ・子育て講演会

感想

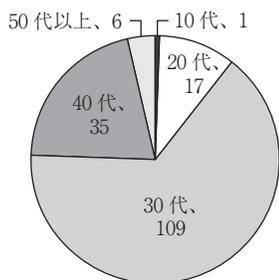
☆みんな元気ジム、面白かった。CDがあれば買ったかった。

☆駐車場がたくさんあるところによかった。

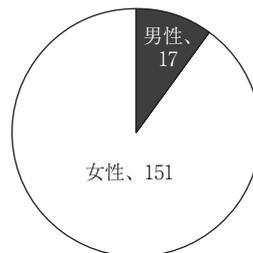
☆今回のようなイベントがあればまた参加したい。

高砂市子育て応援フェア アンケート集計結果（H.26.8.9）

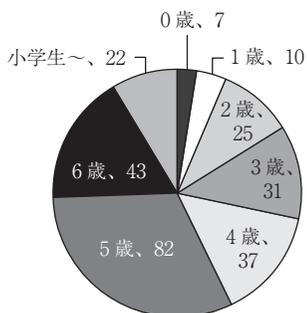
①あなた自身についておたずねします。
あなたの年齢は？



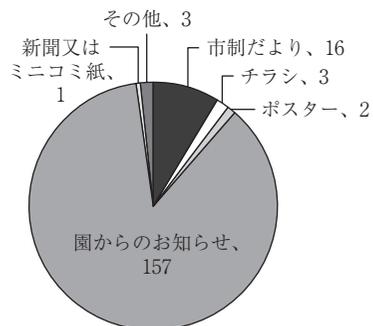
②あなたの性別は？



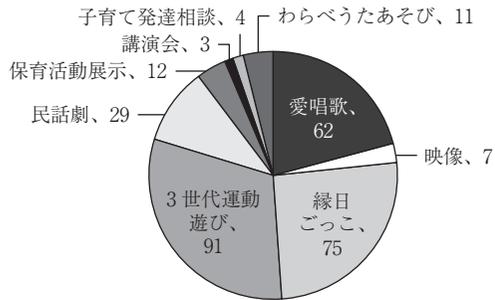
③あなたのお子さん（お孫さん）の年齢をおしえてください。



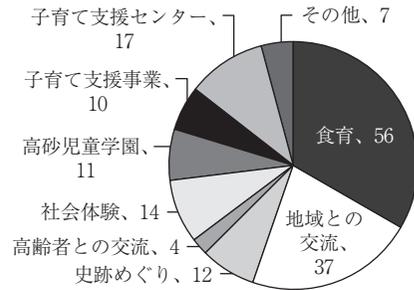
④何で、この子育て応援フェアを知りましたか？



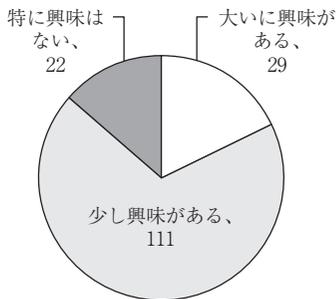
⑤どのコーナーが良かったですか？
(複数回答可)



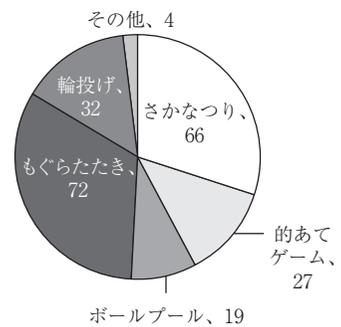
⑥展示コーナーの活動で印象に残ったものは何ですか？(複数回答可)



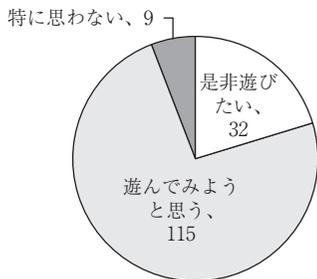
⑦地域に伝わる民話に興味がありますか？



⑧縁日ごっこで気に入った遊びはありましたか？



⑨わらべうたをお家で遊ぼうと思いましたが？



⑩今後、参加してみたいと思う内容等をお聞かせください。

- ・越智先生の親子運動遊び
- ・ワークショップ
- ・父親の子育て講座
- ・わらべうた遊び
- ・ダンス
- ・子育て講演会
- ・運動遊び
- ・色々な工作教室
- ・子どもが楽しめるイベント
- ・史跡めぐり

感想

- ・楽しかった。
- ・下の子どもがねむく、退屈して疲れた。

- ・縁日ごっこがゆっくり楽しめなかった。
- ・親子やおじいさんおばあさんが一緒になって楽しめるコーナーがたくさんあってよかった。
- ・これからも、応援フェアのようなイベントを続けてほしい。

<今後の課題>

地域文化を継承しながら郷土愛を育てるために、3世代が触れ合い、町づくり、人づくりを続けていくこと。地域との関わりを大切に行っていくことが、幼児期から自然に心のふるさと作りへと繋がり、すべての人を受け入れてくれる居場所となり心の豊かさを見出していきます。日々の保育の積み重ねを文化に繋げていきましょう。